

富山大学 都市デザイン学部 同窓会

Vol. **04**

同窓会誌
(発刊 2026年3月)



会長挨拶

原田 隼輔

都市デザイン学部は設立から8年が経ち、5期生が学び舎を旅立とうとしています。同窓会の活動も軌道に乗り始め、年1回の同窓会誌の編纂、地域デザインPBLをはじめとした在校生支援、そして、卒業祝賀会の開催と年間行事が確立し始めております。また、これらの行事の開催にお力添えいただいている先生方に感謝申し上げます。

前号で記載した富山大学統合20周年記念式典・シンポジウムが2025年10月1日に盛大に開催されました。都市デザイン学部の学生もパネリストとして登壇され、日頃の活動を発表するとともに、挑戦し続けることの大切さを述べられていました。また、シンポジウムの中で複数の学問が融合する学際的な場が重要視されていることが述べられ、大学院の学環や都市デザイン学部がそれに当たることがまとめられました。都市デザイン学部は、地球、都市・交通、材料という異なる学問を学ぶ学生がPBL型学習を通して共に学びを深めていくことに特徴があります。この学際的な経験をした同窓生の皆様のご活躍の様子や学びのアウトプットの機会などを同窓会の方へお寄せいただければ幸いです。

私事ではありますが、2025年4月より、富山県内の建設会社に就職をさせていただきました。昨年度までは学部生と近い大学院生としての活動でしたが、本年度より社会人として会長を務めさせていただきます。社会に出て、地域のため誰かのために働くということに、不安と期待を持ちながら、日々の業務を行なっております。働き始めて社会の一員になったことが、同窓会としてどのような活動が学生会員の皆様へ届けられるかを考えるきっかけになりました。今後、この社会での経験を活動に繋げていきたいと思います。また、OBとして富山大学へ訪問することがあります。その度に懐かしさを感じると同時に、ここでの学びはかけがえのない財産であったと考えることがあります。これから社会へ旅立つ学生会員の皆様、富山大学を卒業し、社会で羽ばたいている同窓生の皆様と、大学での思い出話や、社会に出てからの経験などを交流し合える場を、都市デザイン学部開設10周年に向けて創っていきたく思います。皆様と都市デザイン学部らしく、デザイン思考、PBL型ワークで10周年の記念式典を創り上げていきましょう！富山でお待ちしております。皆様のご参画よろしくようお願い申し上げます。



都市デザイン学部の地域社会との架け橋

学部長 安永 数明

富山大学都市デザイン学部同窓会の皆様には、日頃より本学部の教育・研究活動に対し温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、各分野の第一線でご活躍されている卒業生の皆様が、都市・地域づくりや社会基盤整備、産業技術の発展に貢献されていることは、本学部にとって大きな誇りであります。



2025年度の都市デザイン学部では、「地球システム科学」「都市・交通デザイン」「材料デザイン工学」の三分野が連携し、持続可能な社会の実現に向けた教育・研究を一層推進してまいりました。研究面では、材料分野における学会ポスター賞の受賞や、都市デザイン分野の学生によるまちづくり提案映像が全国コンテストにおいて最優秀賞を受賞するなど、学生と教員の共同研究が高い評価を受けました。さらに、GISやデータサイエンスを活用した地域課題の分析や都市デザインに関する研究発表も行われ、本学部の学際的な研究の特色が着実に成果として現れております。

教育面では、PBL（Project Based Learning）を中心とした実践的教育を推進し、地域をフィールドとした課題解決型学習を通して、学生が主体的に社会課題に取り組む機会を広げてきました。例えば、防災井戸の水質調査を通じて地域の地下水資源の持続的利用を検討する学生研究が地域フィールドワーク研究助成に採択されるなど、学生の研究活動が地域社会への貢献にもつながっています。

また、本学部は自治体や企業との連携を重視し、地域の都市計画や交通政策、環境保全、素材技術など多様な分野において共同研究や教育活動を展開してまいりました。富山という地域を実践の場としながら、社会の課題に直接向き合う教育研究は、本学部の大きな特色であります。

人口減少社会の進展や気候変動への対応、インフラの更新など、都市や地域を取り巻く課題は今後ますます複雑化していきます。こうした時代において、自然環境、都市構造、社会システム、材料技術を横断的に捉える都市デザイン学の重要性は一層高まっています。本学部では今後も、分野横断的な教育研究を発展させ、社会に新しい価値を提案できる人材の育成に努めてまいります。

同窓会は、卒業生同士の交流の場であるとともに、大学と社会を結ぶ大切な架け橋でもあります。皆様の経験や知見は在学生にとって大きな励みとなり、本学部の発展にもつながります。今後とも同窓会との連携を深めながら、都市デザイン学部のさらなる発展に努めてまいります。

最後に、同窓会のますますの発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

退職教員より

退職を迎えて

地球システム科学科 勝間田 明男

気象庁を定年近くまで勤めた後、縁あって富山大学に籍を置いてから5年半という月日が流れました。こちらで教育・研究に携わる機会を得られたのは、まさに幸運な巡り合わせであったと感じています。

着任当初はコロナ禍の真っ只中でしたが、ワクチンの普及とともに社会が落ち着きを取り戻していく過程を、大学という場で見守ることとなりました。富山での生活では、北陸ならではの豪雪に驚かされる一方で、近場のスキー場へ足を運ぶといった楽しみもありました。体力的な制約もあり、立山や黒部湖周辺での軽いハイキング程度ではありましたが、富山の豊かな自然に触れられたことは私にとって貴重な経験です。

私の仕事への取り組み方は、壮大な展望を描くことよりも、目の前にある未解決の課題を一つずつ紐解くことに重きを置くものだったと思います。講義や学生の指導においても、もっと良い伝え方があったのではないかという思いを抱えつつも、次々に現れる課題に向き合っているうちに、瞬く間に時間が過ぎ去っていったように感じます。大学へ籍を移した大きな目的の一つは、気象庁時代にやり残していた課題を形にすることでした。この5年半で、仕掛かり中だった仕事の論文化を半分ほど進めることができたのは、大きな喜びです。退職後もこれらの整理を続けつつ、同時に新しい分野にも関心を持ちながら、充実した時間を過ごしていきたいと考えています。

この5年間における技術的な大きな変化といえば、やはりAIの普及です。かつては遠い未来の話だと思っていたシンギュラリティの予兆を、今や日常の様々な場面で感じるようになりました。私自身、最近の論文執筆ではAIの力を借りて英語表現を整えみましました。つたない表現が、自然な英文へと変わっていく様子には、驚きを禁じ得ません。これから社会で活躍する皆さんにとって、AIをいかに使いこなすかは必須のスキルとなるでしょう。時代の流れを上手く捉え、自らの進路を切り拓くための強力な補助として活用して欲しいと願っています。

最後になりますが、富山で関わらせていただいたすべての皆様に、心より感謝を申し上げます。



退職にあたって

都市デザイン学部 材料デザイン工学科 佐伯 淳

2003年11月に富山大に着任して22年が過ぎ定年を迎えることになりました。

助教授で着任し、職位は准教授、教授になり学科等も工学部物質生命システム工学科、材料機能工学科そして新設した都市デザイン学部材料デザイン工学科へ変わりました。工学部時代には創造工学センター長、副工学部長なども務めさせていただきました。都市デザイン学部では構想から立ち上げ初期から携わっていたこともあり、楽しいこと、きつかったこと、一喜一憂たどっていきばきりがありません。長いようで、今振り返ってみるとアツという間に過ぎたように思えます。今思えば着任した数日後が、JABEE実施審査で、何もわからずに受診していたことも懐かしく思えます。その後研修会や審査員としての経験も含め、前回の審査では大半を担わせていただきました。今後は学部での審査となり更なる進展を期待しています。コロナの大流行も、生活様式、学生の行動が大きく変わったと思える出来事でした。まだ完全ではありませんが徐々に戻りつつあることをうれしく思っています。富山は比較的自然災害が少ないと思っていましたが、能登地震は大きな転機となったことはまだ記憶に新しいところであります。

今まで未熟な私を支え、励ましていただいた教員、職員、学生、卒業生の皆様に、そして学部・学科の運営を支えてくださいました理工系総務部及び理工系学務部の皆様にご挨拶とさせていただきます。



卒業生からの一言・思い出

地球に触れた4年間

地球システム科学科 伊藤 りおん

私が地球システム科学科を志願したのはなぜだろうか。今となっては、はっきりと思い出せない。地質時間や大量絶滅の圧倒的規模感に惹かれたのかもれないが、大した動機ではなかったのだろう。たった4年で風化し、記憶から流れ出てしまう程度の動機だ。

それでも、あの時地球システム科学科を選んだ自分には感謝している。この学科での4年間は、私の世界を大きく広げてくれたからだ。普段ならば素通りしてしまうような「ただの風景」にも、地層や地形という形で地球の営みが現れている。地質巡検で約2.5億年前の大量絶滅を物語る、P-T境界の露頭を見学した際は、教授の解説抜きにはその存在にすら気づけなかった。知識の有無は、世界の見え方を大きく変える。それを実感し、学び得た知識と向き合う姿勢を意識できたことが、この4年間で一番の収穫だと感じている。

私はこの春から一般企業に就職し、学術的な世界から去る。より自由な立場で、趣味として地球科学と向き合えるのだ。日常に溶け込む地球の営みに目を向け、小さな発見を楽しみながら、穏やかな生活を積み重ねていきたい。



大学生活を振り返って

都市・交通デザイン学科 藪下 寛朗

私の大学生活は、多くの学びと出会いに恵まれた4年間でした。私は、都市の構造や公共交通の役割、社会基盤を支える構造物などに興味を持ちながら学んできました。授業を受ける中で、普段何気なく見ていた町や構造物を、これまでとは異なる視点から見るようになったことが特に印象に残っています。また、実際に町へ出て調査を行う授業もあり、富山というフィールドだからこそ学べたことも多くありました。大学生活の中で、留学を経験できたことも大きな思い出の一つです。異なる文化や環境の中で生活することで、多様な価値観に触れ、自身の視野を大きく広げることができました。また、大学生活の中で良い友人に恵まれたことも大きな財産です。授業や課題と一緒に取り組むだけでなく、学食で食事をしたり、休日に出かけたりと、多くの時間を共に過ごしました。そうした日々は、今振り返ってもかけがえのない思い出です。大学生活で得た経験を大切にしながら、先生方や友人への感謝を忘れず、これからも歩んでいきたいと思います。





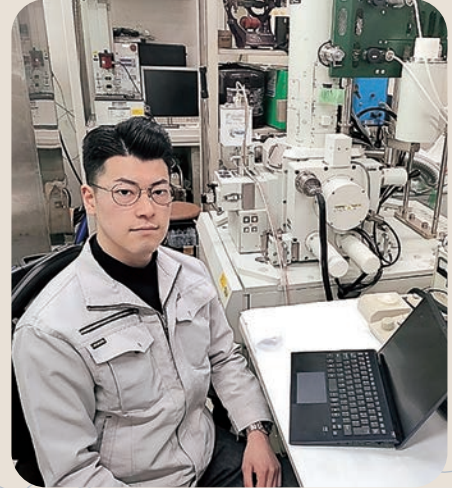
卒業にあたって

材料デザイン工学科 井伊 直文

私は幼いころからクルマが好きで、将来は自動車関連の仕事に就きたいと思っていた。高校に入り受験期を迎えたころ、世間では自動車業界は「100年に一度の変革期」を迎えたと騒がれ、特に完成車メーカーではその将来が不安視されていた。そんな時、富山大学に材料デザイン工学科なる学科があると知り、また材料業界は安泰という噂も耳にした。そして、材料という側面から自動車産業に関わるのもアリかもしれない、そう思ったため本学科に進んだ。

さて、そのような軽いノリで入学して、いざ材料学を学んでみると、材料学はとても奥深い学問であるとともに、材料技術者の責任はとても重大であることを知った。入学して間もない時期に或る先生が仰った「材料屋がいい加減な仕事をすると人が死にます」という言葉は強く印象に残っている。

学部の4年間で学んだ知識は氷山の一角でしかない。私は春から大学院に進学するが、大学院では更に深い知識を身に付け、遠くない将来、責任ある材料技術者として社会に貢献できる存在になれるよう精進したい。



事業一覧

- 4月 (入学式、説明会、新入生対応)、幹事会 *
- 5月 (役員会、総会対応)、幹事会 *
- 6月～7月 (総会)、幹事会 *
- 7月～8月 (会誌立案、企業説明会立案)、幹事会 *
- 9月～12月 (会誌手配、企業説明会・講演会の実施、卒業祝賀会支援案、新入生対応)、幹事会 *
- 12月 (役員会)、幹事会 *、地域デザイン PBL 事業
- 1月 (会誌印刷 (必要分)、卒業祝賀会支援案、新入生対応・入学式対応)、幹事会 *
- 2月 幹事会 *
- 3月 (卒業祝賀会支援、決算・予算)

※幹事会は随時

在校生支援事業

学生生活支援
就職ガイダンス
会社説明会
地域デザイン PBL 事業

卒業生支援事業

同窓会賞 授与
記念品 贈呈
祝賀会支援

令和5年度決算報告

令和5年度 都市デザイン学部同窓会一般会計決算報告

2023年4月1日～2024年3月31日

収入の部

(単位:円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
繰越金	9,484,645	9,484,645	0	ゆうちょ銀行 1,112,088円、ゆうちょ銀行振替口座 4,341,504円 北陸銀行 4,030,053円、富山第一銀行 1,000円
R5 在校生会費		898,020	△ 898,020	ゆうちょ銀行 16人 464,780円 北陸銀行 15人 433,240円
R6 入学生会費	2,988,395	2,269,720	718,675	ゆうちょ銀行 38人 1,140,000円 北陸銀行 38人 1,129,720円
準会員等会費	20,000	0	20,000	
利息収入	5	43	△ 38	ゆうちょ銀行 8円 / 北陸銀行 35円
その他の収入	50,000	0	50,000	広告・寄附 (10,000円 *5件)
合計	12,543,045	12,652,428	△ 109,383	

差引額(予算-決算)

支出の部

(単位:円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
会議費	50,000	16,569	33,431	総会(弁当、お茶代金)・役員会(お菓子代金)
通信費	200,000	630	199,370	同窓会誌 Vol.1 郵送費(3人分)
事業費	2,250,000	1,021,286	1,228,714	卒業式祝賀会、同窓会賞、同窓会誌 Vol.1 印刷 300部、在校生支援
事務費	100,000	9,894	90,106	ハンコ代金、封筒等文房具等
各部事業への協力金	140,000	59,600	80,400	富山大学同窓会連合会協力費
人件費	518,400	545,250	△ 26,850	週2回時給900円 592.5時間 533,250円、交通費 12,000円
その他の支出	50,000	0	50,000	
各種手数料	50,000	35,575	14,425	ゆうちょ銀行手数料 10,605円、北陸銀行手数料 24,970円
次年度繰越金	9,184,645	10,963,624	△ 1,778,979	
合計	12,543,045	12,652,428	△ 109,383	

差引額(予算-決算)

次年度繰越金計算方法

次年度繰越金 10,963,624

※繰越金内訳

※収入決算(円) - 支出小計(円) = 円(次年度)繰越金

ゆうちょ銀行 459,867

ゆうちょ銀行振替口座 4,935,679

北陸銀行 5,568,078

富山第一銀行 0

(2023.4.4解約済)

10,963,624

令和5年度監査報告

2023年度富山大学都市デザイン学部同窓会会計について、帳票類、収支金額、残高内容を監査しましたところ、適正妥当な会計処理が為されていると認めます。

監査年月日 令和6年5月20日

会計監事

田口 文明

佐野 晋一

令和6年度決算報告

令和6年度 都市デザイン学部同窓会一般会計決算報告

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
前年度繰越金	10,963,624	10,963,624	0	ゆうちょ銀行(1人30,000円)、(北陸銀行2人60,000円)
在学生会費収入	0	90,000	90,000	ゆうちょ銀行(10人285,000円)、北陸銀行(8人239,340円)
入学生会費収入	3,000,000	524,340	△2,475,660	ゆうちょ銀行(54人1,590,000円)、北陸銀行(37人1,103,235円)
合格者会費収入		2,693,235	2,693,235	ゆうちょ銀行(0人0円)、北陸銀行(1人10,000円)
準会員等会費	20,000	10,000	△10,000	ゆうちょ銀行(3+572=575円)、北陸銀行(356+2,404=2,760円)
利息収入	43	3,335	3,292	広告・寄附(10,000円*5件)
その他の収入	50,000	0	△50,000	
合計	14,033,667	14,284,534	250,867	

支出の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
会議費	50,000	18,191	△31,809	総会(弁当、お茶代金)・役員会(お菓子代金)
通信費	200,000	7,700	△192,300	ホームページ作成含む
事業費	2,250,000	1,261,882	△988,118	
	【内訳】			
	650,000	93,500	△556,500	会誌編集 ・印刷等(2号93,500円、300部) ・寄稿御礼(在庫の名刺入れ、残り5個)
	700,000	486,737	△213,263	在校生支援 ・地球バス代金(40,300円+振込手数料660円=40,960円)、 地球フィールドノート(26,000円) ・地球ヘルメット代金(132,660円+振込手数料880円=133,540円) ・都市・交通3年進路探索セミナー代金(81,000円) ・材料バス代金(100,000円+振込手数料880円=100,880円) ・材料学生実験器具(79,437円+振込手数料880円+18,040円=98,357円) ・同窓会連合会総会・懇親会費(6,000円)
	800,000	532,018	△267,982	卒業生祝賀会 4/25 支払い ・分担金(501,138円+振込手数料880円=502,018円) ・同窓会賞(30,000円(5,000円*6))
	100,000	149,627	49,627	・全学横断PBL菓子代金(4,615円) ・地域デザインPBL最終発表会菓子飲料代金(145,012円)
事務費	100,000	106,309	6,309	文具等
各部事業への協力金	140,000	60,800	△79,200	同窓会連合会へ分担金(50,000円)+(前年度入会者数)108名×100円=60,800円)
人件費	634,125	606,375	△27,750	週2回*6時間*1,050円*48週
その他の支出	50,000	0	△50,000	慶弔関係等
各種手数料	50,000	40,770	△9,230	ゆうちょ銀行(12,940円)、北陸銀行(27,830円)
繰越金	10,559,542	12,182,507	1,622,965	
合計	14,033,667	14,284,534	250,867	

次年度繰越金計算方法

次年度繰越金 12,182,507

※収入中間決算(円) - 支出小計(円) = 繰越金(円)

※繰越金内訳

ゆうちょ銀行 3,334,864

ゆうちょ銀行振替口座 1,892,060

北陸銀行 6,955,583

12,182,507

令和6年度監査報告

2024年度富山大学都市デザイン学部同窓会会計について、帳票類、収支金額、残高内容を監査しましたところ、適正妥当な会計処理が為されていると認めます。

監査年月日 令和7年6月2日

会計監事

堀田 裕弘

本田 豊

卒業証書授与式



都市デザイン学部
SCHOOL OF
SUSTAINABLE DESIGN

富山大学 都市デザイン学部同窓会 <http://www3.u-toyama.ac.jp/sdalumni/>
同窓会事務局 〒 930-8555 富山県富山市五福 3190 工学部内
Tel : 076-445-6335 (内 6335), Fax : 076-445-6697
E-mail : sdalumni@sus.u-toyama.ac.jp

